

# ナラティブベースドアプローチ

OT推進チーム 評価・訓練班 作業療法士 田染佐夏  
2021年06月02日

# はじめに

- 第1次世界大戦後からエビデンスベースドメディスン（以下、NBM）が提唱されてきましたが、現代ではナラティブベースドメディスンが注目されています。
- 「エビデンスベースド」はよく聞きますが、「ナラティブベースド」は知っていますか？
- あなたは胸を張って作業療法を実践できていますか？

作業療法士はEBAとNBAを使い分けて暮らしに寄り添うリハビリテーションを行います。

作業療法士が作業を支援するために、NBM・NBAについて学びましょう。

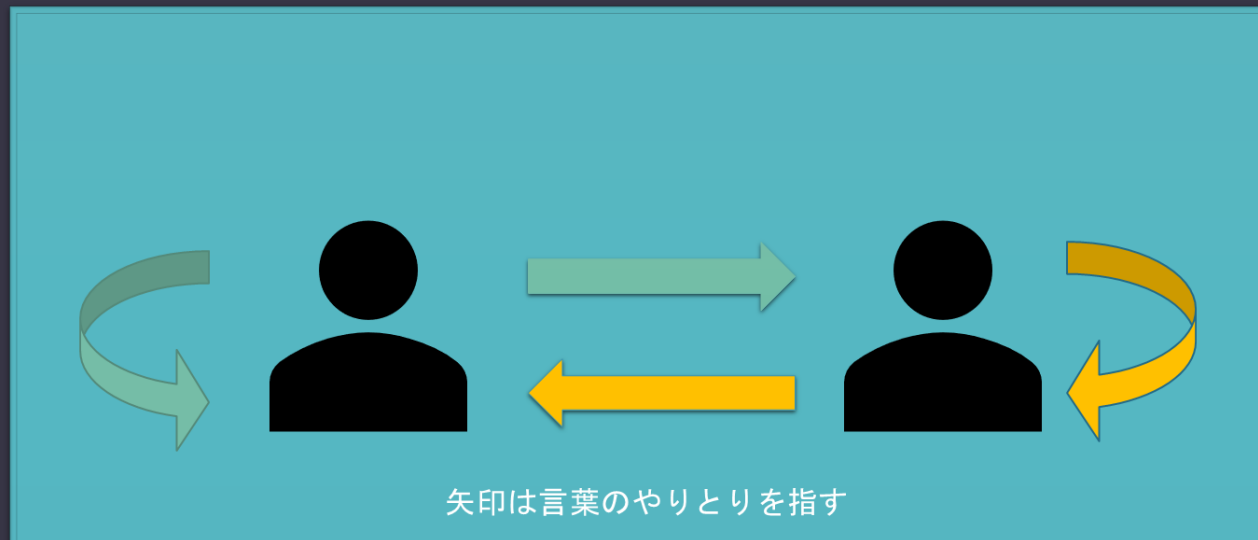
# CONTENTS

- ナラティブとは
- ナラティブに基づく医療と実践
- EBAとNBAの比較
- NBAと作業療法

ナラティブとは

# ナラティブ narrative : 対話

- 英語を直訳すると物語という意味だが、内的対話性と他者との対話を総括した概念である



ひとは他者と対話をすると同時に、自分自身とも対話（内的対話性）をしている

# ナラティブに基づく医療と実践

# ナラティブベースドメディスン narrative based medicine (以下、NBM)

- 対話に基づく医療のこと。
- 現代医療は基本的に科学的根拠に基づいた医療が行われているが、科学的根拠では判断が付きにくい事例に対して有用として注目されている。
- 緩和医療や精神科看護の領域で広く用いられる。

治療を受けなければ死に至る。  
Aという治療法で良くなる可能性は  
五分五分で、治療には苦痛が伴う。



治療を受けなければ  
死に至るので治療を  
受けるべきだけど、  
即決しにくい...

医療は科学的根拠と本人の意向（対話）に基づくことでより質が高くなる

# ナラティブベースドアプローチ narrative based approach (以下、NBA)

- 対話または患者の語りや文化的背景に基づく実践のこと。
- 対象者が暮らす環境・民俗史・慣習によって治療がコーディネートされる。

認知症を抱える●●さんは体調を崩してから食事を食べてくれません...



父親が外交官で幼少期を海外で暮らした●●さんは食習慣が違うのかもしれない。欧米圏では風邪をひいたときにチキンスープを飲むみたい。自宅でどうしていたか聞いてみよう！



会話が成立しなくても対象者の暮らしから治療立案をする



# EBAとNBAの比較

# EBA : Evidence-based Approach

- 科学的根拠に基づく治療のこと。量的評価によってその効果は判定される。
- 同じ疾患・症状であれば介入内容は同じ。

## 利点

- 治療の目的や期待される効果が明確
- 並存する治療方法との比較検討ができる

## 欠点

- 同じ条件でなければ必ずしも参考にできないことがある
- 大多数（8～9割）に効果がある治療方法は、1～2割には効果がないことがある
- 新たな治療方法や未知の病気・障害に対応できない

# NBA : Narrative-based Approach

- 質的評価によってその効果は判定される。
- 同じ疾患・症状でも介入内容はそれぞれ異なる。

## 利点

- 患者の意思や価値観を重んじた治療ができる
- 患者は一般論や確率論を強いられない

## 欠点

- 純粋な治療結果の比較検討はできない
- 一般化された質的評価が乏しい

# NBAと作業療法

## 作業療法と作業の定義

- 作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。
- 作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。

# EBAだけでは作業ができない

- 目的や価値をもつ作業が人によって異なる  
例えば、ピアノを弾く行為をする人がいる。ある人は「幼稚園で子供たちに音楽を教えるために」弾いている。ある人は「発表会で上手に弾けるために」弾いている。このように作業は人によってその目的や価値が異なるため、サンプルを集めて比較検討しても傾向を見出すことはできない。
- 症状の改善を中心としたリハビリテーション構成が健康と幸福を促進するとは限らない  
障害があっても、病気を抱えていても、目的や価値のある生活行為を取り戻すことが作業療法の信念である。その有用性をEBMが説明することはできるが、個々のアプローチの裏付けはできない。

健康を一つのものさしで測ることはできるが、幸福を一つのものさしで測ることはできない

# 作業療法はNBAとEBAを使い分ける

## NBA

物語と対話に基づく治療実践

効果判定は...当事者が決める

主観が改善すれば数値は必ずしも重要ではない

## EBA

科学的根拠に基づく治療実践

効果判定は...治療者が測る

数値が改善すれば主観は必ずしも重要ではない

作業療法

# NBAを臨床に取り入れるために

- 患者との対話で行われる面接  
対話はお互いが平等な立場において成立する。対象者にとって目的や価値のある行為を知る。
- 対話の結果を記録に残す  
介入前の行為に対する主観は、今後介入していく上で重要な初期評価となる。文章に残す・ボイスレコーダーで録音するなど振り返ることができるツールを用いるのが望ましい。
- COPM  
研究や症例報告では数値化が必要。構成的な評価が受け入れやすい患者にも数値化は有用。対話に基づいて評価を行わないとあまり有用でない。
- 患者の自己選択に基づくプログラム構成  
プログラムは数パターン用意して自己選択していただくことが望ましい。期待される効果やデメリットがあれば説明しよう。





# まとめ

- EBAは科学的根拠に基づく治療実践、NBAは対話に基づく治療実践。
- EBAとNBAは対立しないが、交じり合うことは難しい。
- 作業療法士はEBAとNBAをバランスよく両立する必要がある。

# おわりに

- EBAもNBAも短所・長所がある
- 作業療法の基盤はNBAであるべき
- EBAに支配されている医療現場でNBAをするためには十分な知識と説明技術が求められる。

しっかり理論を学んで患者様・家族・他職種に説明できるようになろう！

評価・訓練班では作業療法士が作業に基づく実践を臨床で胸を張って行えるように情報発信を

していきます。書籍の情報も併せて掲載しますのでぜひ参考にしてください！